

リステンロープ M 施工要領書

日本リステン株式会社

〒509-5103 岐阜県土岐市泉東窯町 4-65

TEL(0572)53-4123

FAX(0572)53-4125

目 次

1.	リステンロープ M について	1
2.	止水板の形状	1
3.	副資材、使用量	2
4.	施工道具	2
5.	施工方法	3

1. リステンロープ M について

リステンロープ M は被圧水に強い水膨張ゴムと、コンクリートに強力に接着する非加硫ブチルゴムの複合構造止水板です。

また、リステンロープ M は止水性の良さに加え、後付施工+粘着性があるため施工が簡易で、高い止水効果と施工性を併せ持っています。そのような性能を評価され、さまざまな構造物において使用していただいています。

2. 止水板の形状

商品名	形状	寸法(mm)
リステンロープ M	<p>水膨張ゴム</p> <p>非加硫ブチルゴム</p>	H8×W23×L5,000

3. 副資材、使用量(目安)

- ・コンクリート釘(L25mm) ・リステンボンド US-3000(330ml)
- ・リステンシール D-51(320ml) ・ボンド C-41(1 kg)

副資材 取り付け工法	コンクリート釘 (L25 mm以上)	接着剤
水平部	1本/m	・リステンボンド US-3000 50m/本 (下地状態により)
垂直部	1本/m	平滑下地 ・ボンド C-41 60m/缶
		ラス下地 ・リステンシール D-51 3m/本 (下地状態により)
H鋼		・ボンド C-41 60m/缶 ・リステンボンド US-3000 H鋼 8本分/本

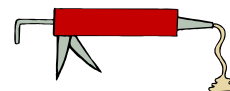
4. 施工道具



- ・ハサミ又はカッターナイフ



- ・ハンマー



- ・コーキングガン

- ・ハケ ・清掃道具

5. 施工方法

全施工共通事項

コンクリート被りは、リステンロープ M 端から 30mm 以上。また、基礎エースなどに挟まれる位置は避けること。

個別施工事項

1) 水平打継部 (図 1)

- ①コンクリート面のごみ、砂、レイトンス等を取り除く。
- ②フィルムを剥がしたリステンロープ M を設置箇所に圧着する。下地が濡れていて接着しない場合(1mピッチ)や、浮きが出てしまう場合は釘止め。
- ③角部はゴムを 90 度にカットして折り曲げるか、ドン付け、または大きな円弧で取り付ける。
- ④ジョイント部はドン付け、または 50mm 以上並列密着させる。
- ⑤凹凸形状により下地面と密着していない箇所は US-3000 にて補修する。

2) 垂直打継部 (図 2)

- ①コンクリート面のごみ、砂、レイトンス等を取り除く。
- ②ボンド C-41 (平滑下地) またはリステンシール D-51(ラス等凹凸下地) を幅 10mm 程度で施工面全体に塗布する。
- ③フィルムを剥がしたリステンロープ M をボンド塗布部に圧着する。必要に応じて釘止め。
- ④ジョイント部はドン付け、または 50mm 以上並列密着させる。
- ⑤ボンド C-41 使用時に凹凸形状により下地面と密着していない箇所がある場合、リステンボンド US-3000 にて充填する。

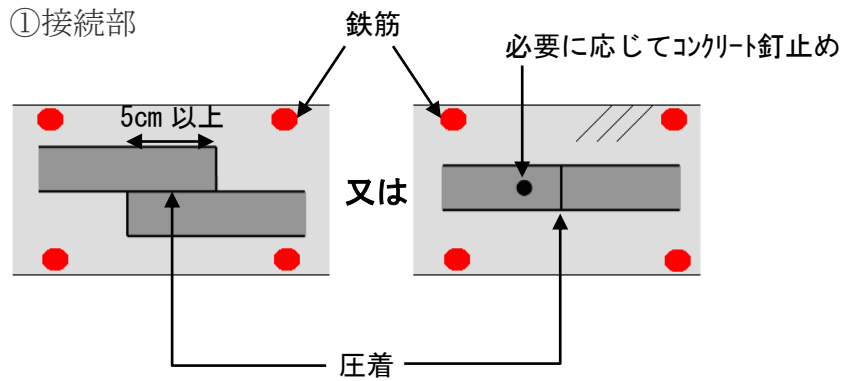
3) H 鋼 (図 3)

- ①ワイヤーブラシ等で接着面を清掃する。濡れている場合はバーナー等で乾かす。
- ②施工個所にボンド C-41 を塗布 (塗布後 30 分程度放置)。
- ③入隅部でリステンロープ M が大きく浮かないよう一方向から圧着していく。
- ④入隅部は貼付け後リステンボンド US-3000 で上下シール。
- ⑤ジョイント部は 50mm 以上並列密着させる。

4) 管 (図 4)

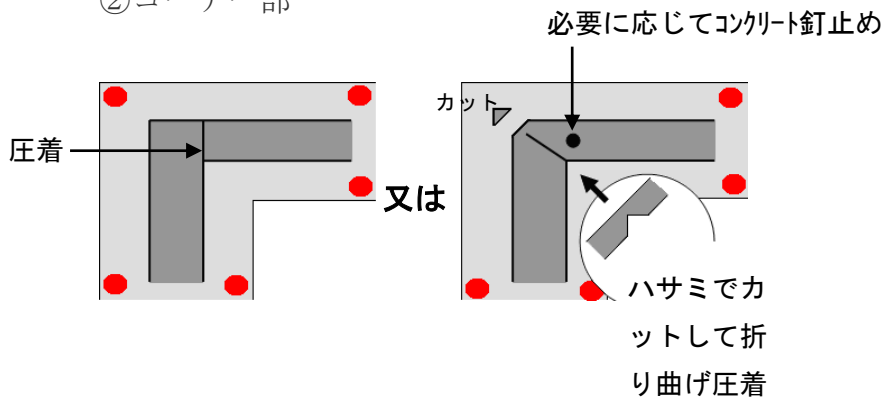
- ①接着面を清掃する。
- ②ジョイント部は 50mm 以上並列密着させる。

(図1)
水平打継部

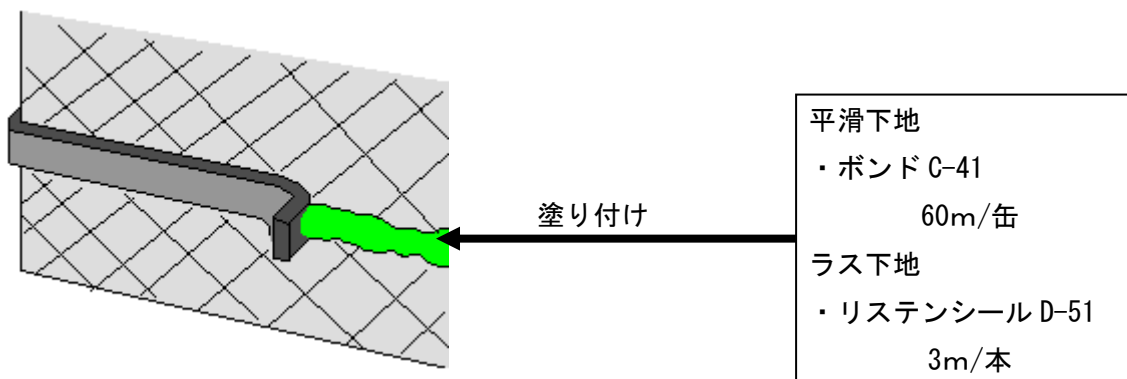


※ドン付け部は隙間が空きやすいので要注意

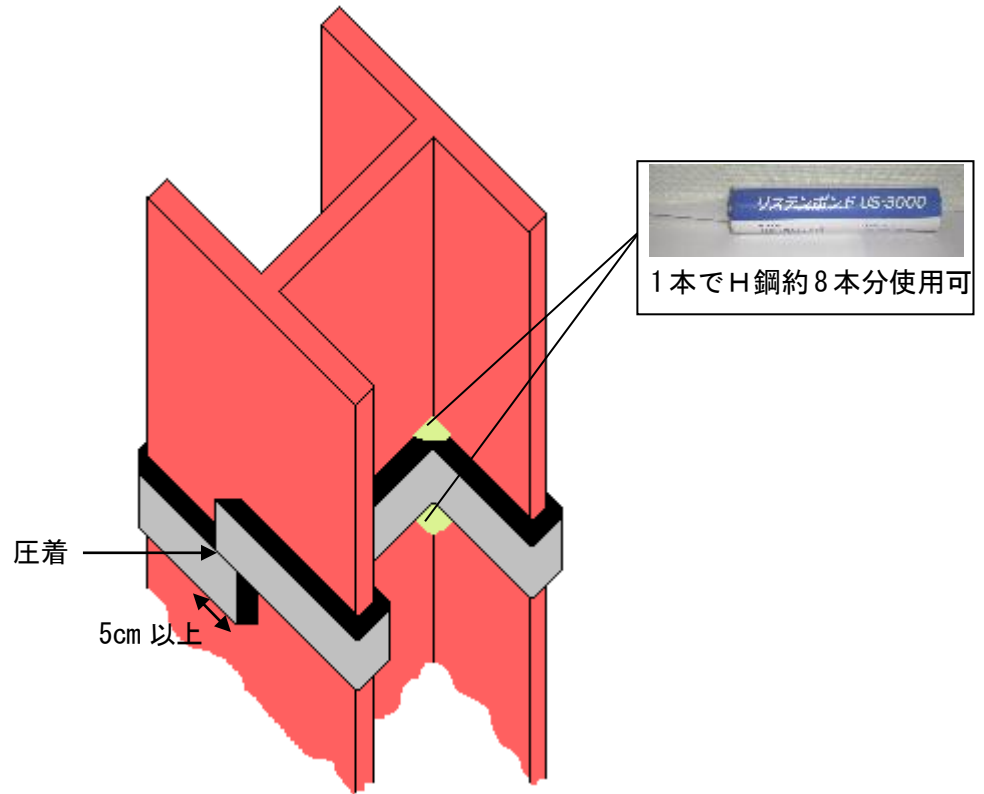
②コーナー部



(図2)
垂直打継部



(図 3)
H 鋼



(図 4)
管

